

ダム&池

1 鴨川ダム

ダム内側の西端にある取水塔から、水を取っておりこの塔には、取水口が9つあります。東条湖の水位に応じてそれぞれの取水口が用いられています。洪水時には堤体上部に設けられた鋼製ラジアルゲート3門により放流されます。



2 昭和池

旧滝野町と旧社町の一部820ha余の農地へのかんがい用水源として、1928年(昭和3年)より1933年(昭和8年)にかけて築造されました。貯水量を確実にするため間接の流域から流水を延長約2.7kmの引水路により貯留します。戦後の昭和22年千鳥川を境として昭和池掛と鴨川ダム掛の水利転換に関する協定が調印され、昭和池の水は千鳥川以北の農地のみを受益地とし、新たに上福田開拓地と加東市牧野・吉馬・曾我・多井田・新町地区にも用水が送られるようになりました。



3 船木池

鴨川ダムの貯水量を補うために、1959年(昭和34年)に完成した新しいため池です。この工事では、土を運ぶキャリオール・スクレパーや土を固めるタイヤローラーなどの近代的機械施工法が用いられたのをはじめ、先駆的な施工方法の試みと技術開発がされました。これらの施工方法はアースフィルダム建設のモデルとして全国に知られています。船木池には、鴨川ダムの水が11.7kmの水路を通じて送られています。



4 安政池

鴨川ダムの貯水量を補うために、1958年(昭和33年)から1963年(昭和38年)にかけて工事が行われました。もとの安政池は江戸時代に築造されたものです。この工事では、安政池の堤高を13.6mから29.0mに嵩上げて、貯水量を7倍以上に増加させました。非かんがい期や洪水時に鴨川ダムから水が送り込まれ、その水を一時的に蓄えて無駄のない有効な水利用が行われています。鴨川ダムの水は、第1号・第2号幹線水路の7.8kmの水路に導かれ、安政池にたどり着きます。



5 平池

江戸時代初期に造られた、周囲1.2kmの比較的大きいため池です。加東市古瀬地区のかんがい用水源として、利用・管理されてきました。1983年(昭和58年)に旧社町(現加東市)によって、大賀ハスやスイレンなどの水生植物の景観を基軸とする「平池公園」として整備されました。平池には、鴨川ダムの水が16.2kmの水路を通ってきます。かんがい用水の利用によって水位が低下した場合は、特別に鴨川ダムの水が送り込まれ、親水公園利用として必要な水位を保っています。



6 小野大池

江戸時代初期に造られたため池で、小野市の葉多・久茂・下大部・片山・王子町(旧大池郷5ヶ村)のかんがい用水源として利用されてきました。ため池周辺は、文化・レクリエーション施設が整備され小野大池と一体となって憩いの場として活用されています。小野大池には鴨川ダムの水が、東条川を超え、船木池を経由して、19.4kmもの水路を通って送り込まれています。

